

<<地域活性化>>

稼げる施設（文化力を経済力へ）

- 各施設に人が訪れることで周辺地域にも人が流れ、登呂エリア内外への民間参入が促進される
- 訪れた人による登呂エリア内外での消費活動が活発化する

市民が誇りを持てる施設（シビックプライドの醸成）

- 地域住民が自ら登呂エリアの価値を発信する／価値の保全に関わる／価値を継承していく

目指す姿

期待する変化

- 登呂エリア（登呂遺跡・登呂博物館・芹沢銈介美術館）に人（観光客、地域住民等）が多く訪れる／何度も訪れる

- 地域住民が展示や体験等を通して登呂エリアの価値を再認識する
- 地域住民が主体的・日常的に登呂エリアを利用する

①登呂エリアに来てもらう

歴史・文化資源の訴求力を高める

ア 登呂エリアが持つ価値を訴求力へつなげる
各施設が持つ本質的な価値を再認識するとともに、その価値を「登呂エリア」として捉えた上でどのようにアピールしていくかを検討し、今後の取組の方向性を明確化する。

歴史・文化資源を線でつなぐ

A 市内外の観光施設等とのネットワーク化

「(仮称)歴史文化施設」を中心として市内の歴史・文化資源等をネットワーク化するとともに、近隣市町も含めた観光施設等との連携を深める。

B SNS等を活用した効果的な情報発信

来場者がSNS等で情報を発信したくなるような仕掛けをすることで、効果的なPRにつなげる。

【例】SNSに映えるフォトスポットを設置

C 乗換ポイントから来場者を誘導する仕掛け

静岡市を訪れた人に登呂エリアに行ってみようと思わせる仕掛けや、登呂エリアへのアクセス方法の選択肢を増やすことで誘客を図る。

【例】新丸子駅から登呂エリアまでの動線に看板を設置
レンタサイクルステーションの設置

②訪れた人が楽しむ

非日常的な時間・体験を提供する

ア 非日常的な景観・空間を楽しむ
日常から切り離された景観を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごせる空間を提供する。

【例】植樹等による「弥生時代」を体感できる景観の演出
飲食をしながら休憩できるカフェ等の設置

イ 非日常の中で特別な体験を楽しむ
非日常的な、また特別感のある場所で、普段はできない体験を提供する。

【例】登呂遺跡でのキャンプ等による宿泊体験
芹沢銈介美術館でのナイトミュージアム

ウ 非日常の中でいつでも誰でも「何か」を楽しめる

多くの人が集まるイベントの会場や、大道芸人等の活動スポットとしての活用等を促進することで賑わいを創出し、登呂エリアへの誘客を図るとともに、各施設の誘客にもつなげる。

【例】「まちは劇場」推進事業との連携
(人が集まるイベントの具体例?)

③地域に対する誇りを育む

市民が登呂エリアに親しむ機会を提供する

ア 郷土の誇りとしての存在感の醸成
小・中学生に、授業等を通して登呂エリアが持つ価値を知ってもらう。
また、高校や大学、専門学校と連携し、登呂エリアで様々な活動をしてもらう。

【例】副読本を活用した郷土教育
大学との協働による地域課題の研究
専門学校と連携したデザインコンテストの実施

イ 日常生活に溶け込む「サードプレイス」としての場所

地域コミュニティの核として、日常的に様々な人が集える場所とする。
また、登呂博物館・芹沢銈介美術館が主催するイベント等に、地域住民が参加者・主催者として関わる機会を提供することで、登呂エリアに対する愛着を育む。

【例】周辺の公共施設等の活動の場としての利用促進
水田復元エリアでの泥遊びまつり

提言
(具体的な取組のイメージ)

解決の方向性

登呂遺跡・登呂博物館・芹沢銈介美術館の魅力を活かしながら、民間企業や地域住民等と連携して多様な取組を実施することで、登呂エリア全体として来訪者数の増加を図る

課題

登呂博物館、芹沢銈介美術館それぞれに企画展等を工夫しているものの、集客に結びついておらず入館者数が減少傾向にある